

○ 「提出用エクセルA」の作成について

【①オープニング】 開始～00:12

この動画では、大規模建築物減量計画書等の報告書の提出にあたり、使用いただくようお願いしている提出用エクセルAの作成方法について、ご説明します。

【②「提出用エクセルA」の構成について】 00:13～00:58

まず、提出用エクセルAの構成についてご説明します。

このエクセルファイルは、大きく3種類のシートで構成しており、1つ目が事業者の皆様に入力していただく入力シート、2つ目が事業用大規模建築物減量計画書制度など各制度の報告書の様式のシート、3つ目が本市がとりまとめの際に使用するシートとなっています。

なお、本市のとりまとめシートは非表示にしています。

赤枠で囲っている入力シートに事業者の皆様が必要事項を入力すると、入力された情報が自動的に各制度の様式シートに転記されます。

また、本市が集計用に使用するまとめシートにも自動的に転記されます。

【③入力シートの機能】 00:59～01:16

自動転記のイメージですが、図のように、入力シートに入力いただいた必要事項を各様式に転記するように設定しています。

また、各様式シートについては、印刷や各制度の報告内容の確認に使用していただくことができます。

【④提出用エクセルAの提出について】 01:16～01:49

次にメールでのご提出についてご説明します。

作成いただいた提出用エクセルAについては、画面に記載している提出用アドレスに送っていただくことで、担当の環境共生センターと資源循環推進課にまとめて各制度の報告書を提出できます。

なお、ご提出にあたっては、本市のとりまとめのため、PDFなど別のファイル形式に変換せず、エクセルファイル形式での送付をお願いします。

【⑤提出用エクセルAの入力方法について】 01:16～10:32

次に提出用エクセルAの入力方法についてご説明します。

画面右上のオレンジ色の箱書きを御覧ください。

この入力シートでは、薄いオレンジ色に塗っている欄と青色に塗っている欄が、事業者の皆様に入力いただきたい欄です。薄いオレンジ色の欄は、文字や数字を入力していただく欄、青色の欄はプルダウン方式で選択肢を選んでいただく欄になっています。

この動画では、ある程度入力した状態で操作、ご説明していきます。まず、提出日や事業者、連絡窓口担当者の情報を入力いただきます。

次に、計画年度や、事業用大規模建築物に関する各種情報、廃棄物管理責任者などの情報を入力いただきます。

計画の年度については、作成時点の日付に合わせて年度が選択できます。この動画の作成日時は2026年のため、2026～2023年までが選択できる状態になっています。

作成時の日付が2027年になると2027年を選択できるようになります。

そのため、作成したエクセルファイルを手元に保存しておいていただければ、次の年度に作成いただく際には、前年度のファイルをコピーして、廃棄物の発生量や取組の実施状況など時点修正が必要な事項のみ修正していただくだけで作成することができます。

次に業種については、事業用大規模建築物の主たる業種を選択してください。

例えば、まず、「主たる業種分類」欄で「学校、社会教育、学習支援業」を選択し、詳細欄で、「大学」を選択してみます。

すると、一番上のところで、どの様式の提出が必要かが表示されます。

大学であれば、事業用大規模建築物減量計画書と2R制度の報告書兼計画書を提出する必要があることが分かります。

この動画では、「金融業、保険業、建設業」の「金融業」を選択してご説明します。金融業については、御覧のとおり、事業用大規模建築物減量計画書のみ提出が必要となります。

次に前年度の廃棄量の実績などを入力いただきます。

事業系一般廃棄物は、「燃やすごみ」と「再生利用可能なもの」の大きく2種類に分かれています。

項目に沿って各廃棄物の再生利用量と廃棄量を入力いただきます。「再生利用可能なもの」の「廃棄量」については、性状の問題でリサイクルできなかった場合など、分別後に廃棄した量が分かっている場合のみ、入力いただければ結構です。

発生量は自動計算するよう設定しており、その他、廃棄量の合計や再生利用率なども自動計算するようにしています。

続いて、量の把握方法について、該当するものを選択してください。

把握方法は「1 重量の実測、2 容積の実測、3 回収委託業者からの報告、聞き取り、4 購入量に基づく把握、5 その他」から選択してください。

なお、「重量や容積での実測」については、サンプルでいくつか測定し、推計を行っている場合も含まれます。

また、主な回収の委託業者等の名前の欄には、収集を委託している業者名などを選択してください。該当がない場合は、その他の収集運搬業者を選択ください。

なお、ダンボールなどの紙ごみや生ごみなどの再生利用可能なものについては、再生利用している資源物の回収業者を選択してください。

次に再生利用の方法等ですが、回答内容としては、「主な再生利用の方法」と、「主な処理施設等」の二種類になります。

ダンボールなどの紙類については、再生利用の方法を「紙製品・固形燃料・その他」から選択いただき、主な処理施設等については、「古紙卸売業者、問屋、製紙工場、自己処理、その他」から選択してください。

生ごみについては、再生利用の方法を、「肥料化、飼料化、減量化、その他」から選択いただき、主な処理施設等については、「自己処理や該当する施設名、なければ、その他の施設」を選択してください。

なお、再生利用していない、再生利用量が0の場合は、空欄で結構です。

次に産業廃棄物の実績をご入力いただき、量の把握方法や回収している委託業者を選択してください。

缶、びん、ペットボトルについて、ベンダー回収を選択された場合は、再生利用量、廃棄量の入力は不要となります。再生利用量と廃棄量の欄も

グレーに塗りつぶされます。

そのほか、記載することがありましたら、備考欄にご入力ください。

次に提出いただく年度の廃棄物の見込みをご入力いただきます。

発生する廃棄物について、このように丸を選択いただき、再生利用量と廃棄量の年間の見込みをご入力ください。発生量と再生利用率の見込みは自動計算されます。

次に「廃棄物の発生抑制等に係る取組の実績及び計画」の入力です。

各項目に記載の内容について、前年度の実績の評価や今年度の計画の見込みを選択いただきます。

様々な項目を掲載していますが、実績については、「徹底して実施のS」から「未実施のD」の中から該当する評価を選択いただきます。

選択の際の目安になるように、実施率の目安も記載していますので、参考にしてください。

なお、この実施率については、あくまでも選択肢を選んでいただきやすくするための目安ですので、あまりとらわれ過ぎず、担当者の主観に基づき、選択肢を選んでいただいで大丈夫です。

また、該当がない取組項目については、「ハイフン」を選択していただきます。入力前のエクセルファイルでは、入力欄の全ての項目に「ハイフン、該当なし」を入力しています。

今年度の計画については、前年度実績と比べて、どうする予定、見込みかを「強化・新たに実施の二重丸」から「休止・廃止・未実施のバツ」の中から選んでいただきます。

実際に入力してみます。例えば、区分1の基本的対策の「ごみ箱、ごみ保管場所での分かりやすい分別表示」の項目について、建物全体で半分程度できているということであれば、「Bのある程度実施」を選択、計画については、前年度と同様に実施であれば「丸」、8割以上を目指して、より強化してやっていくということであれば、「二重丸」を選択していただき

い。

以降、それぞれ記載している項目について、実績と計画を選択いただき、作成をお願いします。

また、今回は金融業を選択しましたので、例えば、区分5の食品ロス対策について、施設内での食料品の提供がなければ、「バツ」を選択いただくことで、この区分の項目がグレーになるように設定していますので、回答いただく必要はありません。

区分7については、施設利用者がいる事業所の中でも、小売業、飲食業、宿泊業に関連が深い項目が多く含まれていますので、レジ袋などの取扱いがないものについては「ハイフン、該当なし」のままで結構です。

なお、利用者向けにウォーターサーバーを設置されている場合は、マイボトルの利用促進の項目に該当項目がありますので、チェックをお願いします。今回のケースでは、利用者向けのウォーターサーバーを常設している想定で「S」を選択しています。

入力作業は以上で、入力シートに入力いただくことで、このようにそれぞれの様式に自動的に転記されます。

また、提出が不要な様式については、自動的にグレーに塗りつぶされ、「提出不要です」との記載が上部に表示されます。

【⑥クロージング】 10:33～10:48

最後に、作成されたこのエクセルファイルを、メールに添付し、環境共生センターと資源循環推進課の共通メールアドレスに送付いただきますようお願いいたします。

提出用エクセルAの作成方法等についてのご説明は以上です。最後までご視聴いただきありがとうございました。